

平成20年度協働モデル35事業実績報告及び平成21年度事業調査

		20年度 実績							
事業名	課名	事業概要	20年度当初計画	実績	協働した団体名	収支額	21年度の具体的取り組み	予算額	
1	省エネ・省資源の推進事業	環境課	各家庭や市民一人ひとりができる省エネや省資源の推進を図る。	市ホームページに掲載済みであり、呼びかけを行う。平成20年4月1日より市内スーパーマーケットにてレジ袋有料化を開始。6月25日より市内ドラッグストアにてレジ袋有料化を実施。市民団体と協働して店頭にて啓発活動を展開する。	市民団体の協力によりレジ袋削減による温暖化防止の効果を理解してもらえた。レジ袋削減率90%以上達成できた。レジ袋削減枚数357万枚 CO2削減量214トン(4月～9月)	豊明市連合婦人会、とよあけ生活学校、けやきの会		レジ袋削減率も90%以上を達成できたので、今後も更なる削減率向上を目標に啓発を進めていきたい。また、レジ袋収益金の還元実績の公表をし、今後新たな協力店の増加を狙う。	
2	家庭系ごみ減量化事業	環境課	3Rを理解し、ごみの適正な処理を実践できる市民を増やすことで、ごみ減量を促す。市民が一体となって、大量消費、大量廃棄していたライフスタイルから限り有る資源を有効に利用する循環型社会を推進していく。	ごみの組成調査を市民団体等と協働して実施し、その結果を町内回覧にてお知らせすることにより資源ごみ回収率の向上を図る。発生抑制としてレジ袋の削減の啓発活動を及びマイバッグ・マイふるしきの普及を市民団体と協働して実施していく。	市民団体の協力により「レジ袋削減」のりかいが得られやすかった。ごみ減量 35トン 3、4、6月の一定期間に駅前やスーパー店舗などでキャンペーンを実施、市民団体が積極的に働きかけをした結果レジ袋削減率90%以上を達成。	各町内会、豊明市連合婦人会、とよあけ生活学校、けやきの会		各町内での月2回の資源ごみ回収は定着しているが、常設の資源ごみ回収場所を確保し更なる回収を目指す。レジ袋削減率も90%以上を達成できたので、今後も更なる削減率向上を目標に啓発を進めていきたい。また、レジ袋収益金の還元実績の公表をし、今後新たな協力店の増加を狙う。	資源ごみ回収委託料78,801千円、資源ごみ処分委託料58,382千円、資源ごみ回収交付金28,458千円
3	有機循環推進事業	環境課	可燃ごみの約半分を占める生ごみを堆肥化して市内の農地に還元活用し、地力の向上を図る。さらに農産物の地産地消も進め、有機循環型社会の実現をめざす。	20年10月を予定として生ごみ分別収集区域を5,000世帯から8,000世帯に拡大。生ごみ収集運搬委託契約の一部メイツと締結。地区拡大後も一部契約の意向あり。19年度に設立した有機循環ネットワーク会議を年3回開催する。	20年10月から西川区、吉池区、中島区のおよそ3,000世帯に協力いただき生ごみ分別収集地区を8,000世帯に拡大した。10月の生ごみ収集地区拡大に伴いメイツの収集地区を700世帯から1,900世帯へと増加させた。有機循環ネットワーク会議は年2回開催し、目標であった農産物のブランド化販売の見通しをつけた。	西川区、吉池区、中島区、社会福祉法人豊明福祉会、JAあいち尾東、NPO法人環境研究所豊明、めいきん生協、農家		生ごみ収集運搬委託契約のうちメイツ分を拡大予定。生ごみ堆肥化をメイツに委託予定。とよあけEco堆肥を使用した農産物のブランド化販売の開始	生ごみ収集及び運搬委託16,500千円生ごみ堆肥化委託11,500千円印刷製本費189千円
4	市民で守る川辺環境事業	都市計画課(旧下水道課)	各川流域の住民・関係者	検討中	皆瀬川(一部区間)の清掃・草刈等(毎月1回、半日程度)を美化活動として、十数名で行っている。	四季の物語紡ぎ隊		市民協働課とボランティアグループとの協議を通じて進めていきたい。	
5	市民で創る公共空間事業	都市計画課	住民参加のワークショップにより既設の公園の問題点及び要望をあげていただき、それらの住民の声を取り入れた現代のニーズに合致した公園整備を行う。地域団体やボランティアの協力により、公園や道路等に設置された花壇やプランターに花を植栽し、その維持管理をしていただく。	新田公園のリニューアル5月末から4回程度のパートナーシップにより改修計画を立案し11月～2月の間に県費補助で施行する。公園の花壇は年2回の植替えを実施する。花壇の増設は花いっぱい運動で対応する様各区に促す。	新田公園のリニューアル5～7月月の3回のパートナーシップにより改修を立案し10月～2月の工事を施工した。公園の花壇の2回の植替えをフラワーボランティアにより実施した。花いっぱい運動を各区に推進した。	大久伝区  フラワーボランティア、各区	12,313千円  2,308千円	山ノ神公園のリニューアル5～7月月の3回のパートナーシップにより計画を立案し、10月～2月に改修工事を施工する。  年2回の各花壇の花苗の植替えをフラワーボランティアにより実施する。花いっぱい運動を各区に推進する。	11,000千円  2,690千円

平成20年度協働モデル35事業実績報告及び平成21年度事業調査

			20年度 実績						
事業名	課名	事業概要	20年度当初計画	実績	協働した団体名	収支額	21年度の具体的取り組み	予算額	
6	二村山の景観保全事業	都市計画課	二村山一帯は自然環境にあふれた区域で、市の緑地のシンボリック的存在である。しかし、近年維持管理の担い手を失い荒廃が進んでいる。このため、雑木林を整備し、季節感あふれる美しい自然の緑地として保全整備していくものである。	里山保全活動と自然観察会を随時開催し、市民に二村山環境保全を認識してもらう。  未買収地の立入りが困難な場所があり荒廃がかなり進んでいるが協議会を中心に今後の整備について検討する。	二村山環境保全推進協議会と協働し里山保全活動と自然観察会を実施した。  あいち森と緑づくり事業で採択出来る様愛知県に働きかけた。	二村山環境保全推進協議会  二村山環境保全推進協議会	189千円  -	二村山環境保全推進協議会と協働し、保全ボランティアの増強を図る。  あいち森と緑づくり事業での用地取得を検討する。	180千円  -
7	地域を守る防災・防火体制	消防総務課	町内会を基本単位とした自主防災会により、きめ細やかな防災体制を確立し、災害時の市民の対応力を高め、被害を最小限にとどめることができるよう組織強化を図る。	平成19年度に市内全域に自主防災組織が設置され(121団体)、20年度においては、自主防災組織の組織強化を図るため連合会の設置に現在作業中である。 消防団、婦人防火クラブにおいては、自主防災会と協力し防災意識の高揚を図り、火災発生時には初期消火活動ができるように消防訓練等を実施する。(消防総務課)	自主防災会、町内会等が実施する消防訓練に消防団を派遣し、立上り消火栓や消火器の取扱いについて指導し、初期消火活動ができるようにするとともに、初期消火の重要性あるいは火災の危険性について周知することができた。(20年度指導数7件) 婦人防火クラブの各支部が主催で消防訓練を開催し、消防職員から立上り消火栓や消火器の取扱いについて指導を受け、火災発生時でも初期消火活動ができるようにした。また、支部内住民も参加し防災意識の高揚を図ることができた。(20年度婦人防火クラブ主催の消防訓練数 21件)	豊明市消防団 豊明市婦人防火クラブ	平成20年度に引続き、自主防災会等からの消防訓練指導依頼に対し消防団を派遣し、火災発生時に初期消火活動が実施できるようにする。 婦人防火クラブの支部が開催する消防訓練に地域住民の参加を促し、防災意識の高揚を図る。		
		防災安全課	また、消防団、婦人防火クラブとも連携して各種訓練を実施する。	平成19年度に市内全域に自主防災組織が設置され(121団体)、20年度においては、自主防災組織の組織強化を図るため連合会の設置に現在作業中である。 自主防災組織が中心に防災訓練、防災講演会などの行事に積極的な参加、活性化を図り活動が市民に見えるように推進していく。(防災安全課)	災害時要援護者の名簿及び所在確認のため、民生児童委員との連携協力地域が実施する防災訓練、消防署・消防団と協力し地域を守る(初期における)防災・防火体制を普及する。平成21年4月設立準備 防災については市民の関心が高く、区・町内会住民の自主的参加望める。		豊明市自主防災組織連合会が4月1日に発足。今後、市内121団体の自主防災会に提言、支援を行い自主防災の活性化を図っていく。 自主防災連合会主催の講演会を行い、市内各自主防災会の知識普及に努める。	100(千円)	
8	安心安全の見守り活動	児童福祉課	安心安全のまちづくりのため、地域、市民団体、警察、教育委員会、行政などが連携をとりながら、防犯パトロールや街頭での交通安全啓発など各種の見守りパトロール活動を展開する。	地域の人に園児の安心安全のために、見守りをお願いしていく。(児童福祉課)	地域ボランティアによって安心安全のまちづくりに力を入れ、地域での安全パトロール・スクールガード・地域防犯ボランティアとの自主的活動 保育園の散歩時など、見守りの必要となるときボランティアとして同行してくれたり、施設内の花壇の手入れをしながら見守りをしてくれた。	周辺のお年寄り	0円	前年に引き続き、地域のお年寄りを中心に保育園、児童館の見守りをお願いしていく。	0円
		防災安全課 学校教育課	安心安全のまちづくりのため、地域、市民団体、警察、教育委員会、行政などが連携をとりながら、防犯パトロールや街頭での交通安全啓発など各種の見守りパトロール活動を展開する。	交通安全事業は交通事故ゼロの日街頭指導、交通安全教室及びキャンペーンにより高齢者、児童など交通事故の減少と飲酒運転の根絶、交通安全モデル地区の指定。 防犯事業は小学校での連れ去り防止の防犯教室などの実施と地域安全のパトロール実施。連絡協議会(学校教育課と連携)を通じて自主防犯団体に防犯活動資料の提供、犯罪多発地区などへの情報提供、犯罪防止を推進するための防犯設備費補助、防犯灯電気料金補助及び地域安全モデル地区指定の実施。(防災安全課) 登下校時のさわやか一声運動を展開しながら、スクールガード、地区防犯ボランティア等の連携強化のため、連絡会(年2回)を開催し、情報の共有・伝達に努める。(学校教育課)	交通事故死ゼロの日に交通立哨活動。年末に飲酒運転撲滅キャンペーンを開催する。高齢者に対して交通安全教室を開催。就学前の児童に対して交通安全教室を信号機を使い効果的に行った。防犯事業は小学校での連れ去り防止の防犯教室などの実施を始めたし、振り込めサギ抑止の防犯教室を地域でも開催した。地域安全のパトロール実施。自主防犯ボランティア団体に防犯活動資料の提供、犯罪多発地区などへの情報提供、犯罪防止を推進するための防犯灯設備費及び電気料金に対して補助を行った。地域安全モデル地区を指定し、地域と一体となった犯罪抑止を行った。(防災安全課)	交通安全協力会、交通安全モデル地区(坂部区)自主防犯団体ボランティア、地域安全モデル地区(二村台4区、西区、桜ヶ丘区、大脇区)	700(千円)	交通事故死ゼロの日に交通立哨活動。年末に交通安全キャンペーンを開催する。高齢者に対して交通安全教室を開催。防犯事業は小学校での連れ去り防止の防犯教室を実施する。高齢者に対し防犯教室を開催。自主防犯ボランティア団体と地域安全のパトロール実施と情報提供。犯罪多発地区をモデル地区に指定し、地域と一体となった犯罪抑止を行う。(防災安全課)	480(千円)

平成20年度協働モデル35事業実績報告及び平成21年度事業調査

		20年度 実績								
事業名	課名	事業概要	20年度当初計画	実績	協働した団体名	収支額	21年度の具体的取り組み	予算額		
9	普通救命講習会等事業	消防署	大規模災害及び家庭・事業所におけるの傷病者発生時に、救急隊到着までの応急手当が実施できるように、心肺蘇生法、AED（自動体外式除細動器）の取り扱い講習を行い、救命率の向上を図る。	H20.4.1より消防署で実施している救急講習会等を平成20年1月1日に設立された「応急手当普及ボランティア」の会の方々と消防職員で協働して講習を進めている。	応急手当普及ボランティア「88クラブ」の会員の方々と消防職員で協働して講習会の開催を進める。  応急手当普及ボランティアのみによる普通救命講習が14回104名に対して行われ、消防職員以外による応急手当の普及活動が進んだ。	88クラブ	0	普通救命講習を定期開催にし、普及員の方の参加予定を以前より立てやすくした。  事業所等で普及員の方が開催している救急講習・普通救命講習を開催しやすいよう資器材の貸し出しを積極的に行う。	0	
10	ウォーキングをとおした健康づくり事業	体育課	市民が気楽に参加できるスポーツイベントとして毎月第1日曜日に市民が二村山を目指して歩く「市民歩け歩け運動」を開催する。	各種団体を活用して、PR活動をする。	体育課・・・広報にてボランティア募集し4名の方に当日の受付等を行ってもらい、ボランティアの方も自宅から二村山へ歩いてこられる、広く市民の皆さんに「市民歩け歩け運動」を知らせていただく。	豊明市体育指導委員(毎回3名)他ボランティア3名 H20.4~H21.3までの参加者5,440名		毎月第1日曜日に5月~9月は7時より8時、10月~4月は8時より9時に二村山を目指して歩け歩け運動を実施しているが更に広報等によりPRをして参加人数を増やしたい。		
		健康課	全世代を通して運動習慣、健康維持の第一歩としてウォーキングを普及するように努める。個人的に実施するウォーキングのほかに、ウォーキンググループを中核として毎月ウォーキングを実施し、ウォーキングに取り組む市民を増やしていく。	各種団体を活用して、PR活動をする。	健康課・・・市民ウォーキングは月1回、毎月第4金曜日に開催 毎回40~50名程度の参加を得る。4月~3月 一年間参加者数497名であった。	ウォーキング推進グループ	消耗品費 8,322円 備品17,325円	健康課... 参加カードを配布。参加時にスタンプを押して自分の参加状況を確認できるようにする。ウォーキング出発前に保健師や栄養士からのワンポイントアドバイスを実施。	健康課 消耗品費 3,000円	
11	自主グループによる子育て支援事業	健康課	子育て支援講座の開催や子育て情報誌の発行など、自主グループの企画運営により、子育て真っ最中の親の視点とそれをサポートする経験者双方の視点を交え、市民の目線で子育てを支援する	子育て支援センター・保健センター等で子育て情報誌の利用が多いので、平成18年度に作成したものをベースに最新情報を記載した情報誌を作成する。	現役ママさんの視点と情報網、ネットワークの良さで参加者のニーズに即した内容の子育て支援講座が企画運営できた。	子育て支援ねっとひまわりっこ	委託料 156,000円	平成20年度をもって「ひまわりひろば」「ひまわりひろば ぷち」委託は終了とする。 平成21年度以降、健康課が実施する「子育て支援講座」において、現役子育て中の母親たちの視点を活かした事業を実施するため、ひまわりっこメンバーを講師として企画運営等行う予定。	子育て支援講座 講師料54,000円	
		児童福祉課		各保育園・児童館の地域ボランティアが積極的に「みんなで子育て隊@とよあけ」に登録していただき、施設内でボランティア活動に協力いただいている。	保育園・児童館・支援センターに登録をした139名のボランティアが、各施設の行事を始めさまざまな場面で運営の協力をしてもらった。	「みんなで子育て隊@とよあけ」44名保育園・支援センター・児童館登録者・一般市民	0円	意欲のある市民にボランティア登録をお願いし、保育園、児童館、支援センターの運営協力をしてもらう。	0円	
12	子どもの居場所づくり事業	児童福祉課	子育てを地域で支えることが重要視されている中、学校や家庭とは違った居場所である児童館が健全育成としての遊び場となるよう検討する。 また、子どもたちが休日や有意義に過ごすことができるように、文化系のクラブを設立、市民の指導者による子どもたちの居場所づくりを行う。	北部児童館において午前中に開催していた親子教室を午後にも開催し地域の幼児親子の交流や、遊びを通して親子の仲間作りの援助を図る。(児童福祉課)	毎月各児童館にて市民ボランティアの協力で、絵本の読み聞かせ・幼児親子体操・健康体操・踊り・将棋・製作活動全般各児童館でお話のかいを開催・・・児童が話を静かに聴けるようになった。幼児体操、健康体操の輪が利用者の口コミで広がった。	「みんなで子育て隊@とよあけ」44名児童館登録者19名・一般市民	0円	各児童館において、市民ボランティアの協力で絵本の読み聞かせ・幼児親子体操などを進めていく。また、西部児童館・二村児童館では、児童館を中心にした子どもと地域を結びつける事業を実施していく。	378,000円	
		生涯学習課		吹奏楽クラブなどの11クラブが年間500回ほどの自主活動を民間指導者を中心に実施する。(生涯学習課)	文化系ジュニアクラブは、学校・公民館など公共施設を活用し、市民指導者50人を含む62人の指導者により、土曜日を中心に11のクラブが延481日の活動を行った。また自主事業として、読み聞かせ講座・子ども理科実験教室を実施した。	読み聞かせグループ「コロボックル」・愛知教育大学訪問科学教室「フレンドシップサークル」・文化系ジュニアクラブ登録指導者	文化系ジュニアクラブ補助金 3,879,000円	子どもたちのニーズを踏まえ、より充実した活動支援に努める。	文化系ジュニアクラブ補助金 3,879,000円	

平成20年度協働モデル35事業実績報告及び平成21年度事業調査

20年度 実績									
事業名	課名	事業概要	20年度当初計画	実績	協働した団体名	収支額	21年度の具体的取り組み	予算額	
13	託児サービス充実事業	児童福祉課	子育て世代が社会活動等に参加の促進と男女共同参画社会の実現に向けて、市が主催する事業にかかる臨時保育室を設けて、一時的に託児サービスを実施する。	市主催事業に限り、無償託児サービスを実施し、ファミリー・サポート・センターの会員等の有志から託児サポーターに登録して頂き、有償サポーターとしてお願いしていく。救命救急講習や子ども事故予防研修受講者が登録者	年間115回の市主催事業において、子育て中の市民の利便を図るため、355人のサポーターにより564人の子どもを託児した。	託児サポーター登録者	639,450円	市主催事業において、無料託児をおこない、子育て支援を図る。	863,100円
14	独居高齢者に対する宅配給食サービス事業	高齢者福祉課	対象世帯の高齢者に対し昼食・夕食を宅配する。宅配給食事業者の確保、利用者の調整及び安否確認事務を行う。	19年度決算額 7,206,600円 を抑制するため、市の補助額を配送費分の200円に20年度より改めた。この要綱は「身体が虚弱のため調理することが困難な」「ひとり暮らし老人等」に「食生活の改善」・「安否の確認」を目的としているが、今後も対象者の増加は確実と思われる。申請者の情報は、個人情報保護の立場から民間への委託は難しいが、経済的な部分における金銭補助と、安否確認サービスの人的補助で、補助金を対象としない補助を導入できないかを、乳酸菌飲料配布の委託先の社会福祉協議会・地域を把握する民生児童委員・在宅介護支援センター・安否確認を補助するボランティア・給食業者と検討したい。食生活の改善に寄与されているので、安否確認の部分で、乳酸菌飲料配布と関連・一本化も検討したい。	栄養改善と安否確認の為に実施。1週間のうち、昼食3回まで・夕食3回まで利用可能。1食あたり500円を利用者が負担し、安否確認・配達・事務手数料として市が200円を補助。20年度実績 昼食21,422食、夕食 8,048食 配達時に手渡しできなかった場合、宅配給食業者、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センターなどの関係機関だけでなく、民生児童委員や近隣住民と協働し安否の確認を行った。	宅配給食業者、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センター、民生児童委員、利用者の近隣住民	5,894,000	住民同士の気付き合い・支え合いが出来るよう市民に呼びかけ、新聞社や郵送会社等との連携体制を組むことにより、安否確認や要支援者の早期発見体制を強固にする。	5,520,000
15	障害者の就労支援事業	社会福祉課	相談支援事業で障害者の相談業務を充実させるとともに、地域自立支援協議会において就労関係の各機関や事業者との関わりを強化する。さらに、市内事業者に障害者の雇用について連携していく。	平成19年度に実施した企業への障害者雇用に関するアンケート調査で、採用予定有と回答した企業(18社)に、訪問等をして、障害者雇用の実現に向けて働きかける。障害者の相談支援事業者や就労支援センター等と連携し、障害者の就労支援を実施していく。	は実績無し は個別に相談のあったケースのみ対応した。	地域生活支援センター「ファイン」	0円	尾張東部障害者就業・生活支援センター「くすのき」と協働して、障害者の就労に関する相談に対応する予定。また、障害者地域自立支援協議会を立ち上げ、その中で就労支援部会を設置し、障害者の就労支援を実施する予定。	0円
16	ボランティア団体活性化事業	社会福祉課	ボランティア活動をしている市民のネットワーク作りを支援したり、ボランティアに興味のある方にそれぞれのボランティアの内容をお知らせして、活動に結びつける。	社会福祉協議会のボランティアセンターを通し、ボランティア活動を支援していく。19年度までに70団体を登録し、拡大した。さらにPRを行い、充実を図るよう、事業を支援する。	社会福祉協議会のボランティアセンターを通し、ボランティア活動を支援した。20年度は、最終的に、70団体を登録した。	社会福祉協議会ボランティアセンター	0円	社会福祉協議会のボランティアセンターと連携を図り、ボランティア活動を支援していく。	0円
17	市民の力を活かした福祉サービス充実事業	社会福祉課	障害者(手帳所持者以外も含む)の個々のニーズにあった福祉サービスを提供する。	平成20年度からNPO法人めだかの会が運営するむぎの花を地域活動支援センターとして契約して支援している。移動支援事業に関しても、豊明福祉会と市内で2番目の事業所として契約して支援している。	平成20年度からNPO法人めだかの会が運営するむぎの花を地域活動支援センターとして契約して支援をした。移動支援事業に関しても、豊明福祉会と市内で2番目の事業所として契約して支援した。	NPO法人地域とともに生きるめだかの会、豊明福祉会	めだかの会約150万円、豊明福祉会約500万円	平成20年度に引き続き、2つの団体を支援していく。	めだかの会約240万円、豊明福祉会約720万円

平成20年度協働モデル35事業実績報告及び平成21年度事業調査

			20年度 実績						
事業名	課名	事業概要	20年度当初計画	実績	協働した団体名	収支額	21年度の具体的取り組み	予算額	
18	市民の健康づくり運動事業	保険年金課	健康増進を目的として自主的に活動する既存グループや新たなグループの立ち上げに積極的に協力し、グループが自力で運営活動できるようにする。活動に対しては保健師や栄養士など専門的な職員を派遣して、市民の地域健康づくり活動を支援していく。	既存のグループ10団体(2・3年目)と新規の申込団体(現在審査中)に看護師、管理栄養士を通じて健康医療・食事栄養に関する講話・調理実習を実施していく予定です。今年度の内容は、グループとの話し合いの中で決定していくつもりです。	団体へは1年目3団体、2年目6団体、3年目4団体のあわせて13団体へ支援を実施した。各グループに平均1~2ヶ月に一度のペースで各団体担当の保健師、看護師、管理栄養士が支援を行った。	・前後豊クラブ ・青い鳥けやきの森 ・双峰クラブ ・楽しい男性料理教室 ・さくら会 ・いいな会 ・ミキサークル食生活改善推進グループ ・ゆたかゴーゴークラブ ・ゆたか台体操クラブ ・大脳げんき会 ・寿健康会 ・あじさいの会	予算67.5万円 歳出58.5万円	今年度も引き続き既存のグループ8団体(2・3年目)と新規の申込団体(現在審査中)に看護師、管理栄養士を通じて健康医療・食事栄養に関する講話・調理実習を実施し支援していく予定です。今年度の内容は、グループとの話し合いの中で決定していきます。	67.5万円
19	産直所の設置事業	産業振興課	産直所の設置により、安心安全で安価な農産物を市民に提供するとともに、農家の生産意欲を刺激し、農業の活性化を図る。	西部直売所を12月に拡充する予定である。	あいち尾東農協が、豊明西部産直センターを3月に改装オープンした。	あいち尾東農協		1年間の売上、利用者の声など売上増加に向けた検討を行う。	
20	市民菜園設置事業	産業振興課	市民菜園に関心のある高齢者を中心に、市民の要望に応え、遊休農地を活用することにより、併せて市内の遊休農地の解消を支援する。	利用者の意向を聞き取りによる調査をする。	利用者の意向を聞き取りしたが、個人志向が強く、管理組合を結成は、困難であることが判明した。		市民菜園利用料 719,000円 管理委託料 483,000円	管理委託をしている農協にテコ入れをし、市民菜園管理組織の充実を図る。	
21	商店活性化事業	産業振興課	商店街が行う活性化事業を支援する。国・県の補助制度を活用し、商工会、商店街(発展会)等と連携しながら顧客・地域住民のニーズにあった商店街の活性化を図る。	愛知県ががんばる商店街推進事業で採択された「ガンバルぼっくす事業」を引継ぎ今年度も実施する。又、当該事業のPR等を兼ねたイベント事業の検討を進めて行く。	ガンバルぼっくすを活用した新規事業者数が前年度より18事業所の参加があり、その内商工会員の新規加入企業が5事業所の獲得が図れた。	商工会(事業主)	2,380,308円 市補助金 793,000円 県補助金 793,000円	商工会(ガンバルぼっくす推進委員会)で検討中	3,000,000円の内、市補助金事業費の1/3以内 県補助金事業費の1/3以内
22	まちの魅力発信事業	産業振興課	三大古戦場のひとつである「桶狭間古戦場伝説地」の名称とともに歴史のまち「豊明市」のイメージを広く定着させる。また、名店、名物など地域資源を見直し、地域活性化の手段として積極的に情報発信を行う。	20年度に二つの観光ウォーキングコースを選定する 三大古戦場のひとつと言われている「史跡桶狭間古戦場伝説地」とその周辺コース。 その他の史跡・景観散策コース。 ( ・ ともA3両面で各2,000部程度印刷する 計画)	今後、健康課に市民ウォーク団体と協力し「観光ウォーキングマップ」や豊明市内史跡・お店の紹介等のマップの作成を市民の方々と作成する。	なし		商工会の国補助事業の中で協議して検討する。内容は市内史跡、お店等の紹介を含めた「史跡散策ルート」のマップを作成する予定。	市観光協会の予算額 420千円

平成20年度協働モデル35事業実績報告及び平成21年度事業調査

20年度 実績									
事業名	課名	事業概要	20年度当初計画	実績	協働した団体名	収支額	21年度の具体的取り組み	予算額	
23	豊明秋まつりリニューアル事業	市民協働課	農協、商工会等の経済団体をはじめ、文化協会などの市内の様々な団体の協力を得て実施する昭和58年から続く大きな市民祭りである。この祭を単なる市民の参加や手伝いだけではなく、市民主導による真の「市民のまつり」に変革するために様々な見直しを進めていくものとする。	これまでまつりを支えてきた各種団体と協議し、自主予算によるまつりへの協力を依頼する。市役所メイン会場について市民の実行委員会を組織し、運営する。	市民（市民団体）等の自主的・主体的な企画・運営で積極的に進めていくことができた。	豊明桶狭間太鼓・豊明太鼓・豊明乱舞・カラーガード・バトン・職員ボランティア等	2,000,000円	平成21年度も市民主導型による「市民のまつり」を進めるため市民（市民団体）による企画・運営を積極的に図り市民参加型のまつりを進める（継続・拡大）	3,000,000円
24	生涯学習メニューの充実事業	生涯学習課	市民のニーズに応じた講座を提供し、各種講座の講師として活躍できる市民（市民講師）の発掘と育成を進め、生涯学習サークルなどと連携した市民の自主運営による講座や発表会の拡大を支援する。	サークル主体の講座を2講座、助成講座を1講座を前期（9月末）開催する。NPO団体による「田んぼの学校」講座を開催する。	サークル主体の講座2講座 前期：ちぎり絵講座（4回開催） 後期：手編み（ベストを編む）（5回開催） NPO団体による講座 前期：環境について考える「田んぼの学校」（5回開催） 後期：竹炭やき体験講座（4回開催）	わすれな草の会 手あみサークル NPO法人環境研究所豊明	講師謝礼 24,000円 支出 30,000円 支出 30,000円 支出 合計84,000円	公民館サークル主体による講座を2開催する NPO法人団体による「田んぼの学校」講座を開催する	講師謝礼全体の予算 1,184千円
25	市民フェスティバル推進事業	生涯学習課（文化会館）	市内で活動する音楽・演劇団体により組織された市民フェスティバル実行委員会により運営・開催される芸術祭。この市民フェスティバル実行委員会の運営を促進していく。	昨年度と変わりなく、実行委員会方式で継続して行う。	市民参加事業として実施し、実行委員会方式で行った。	市民フェスティバル実行委員会	1,000千円	計画どおり12月の第1・2週の日曜日に開催し、集客人員を前年度以上としたい。	1,000千円
26	市民が支える文化会館運営事業	生涯学習課（文化会館）	文化会館がより親しみやすい場所となるため、文化事業の企画・運営をサポートする文化ボランティア組織「文化の風」の設立と会員の増加により文化活動を充実させる。	会員増強は基より、今年度は組織会員での企画で自主事業の運営から開催までを行う。	自主事業開催日の来客案内、チケットもぎりなどを行うとともに、自ら企画・運営したコンサート（松田昌）を開催した。	文化の風	直接の予算はない	2回目の企画・運営コンサートを行うとともに、これまでと同じく自主事業開催日の活動を継続して行う。	直接の予算はない
27	ボランティアによる図書館サービス充実事業	図書館	自主的なボランティアグループまたは個人の力で図書館事業の一部（おはなし会・読み聞かせ・本の修理等）をサポートしてもらい図書館サービスの向上を図る。	おじいさん、おとうさんなど男性を対象にした読み聞かせ講座等を開催し、図書館ボランティアへの男性の参加を促し、地域を視野にいたれたボランティアの拡充を進めていく。また、ボランティアの組織化について検討していく。	ブックスタート・おはなし会・ビデオ講習会・古本市等の実施や小学校での読み聞かせ・おはなしコーナーの壁画制作・合同読書会の企画進行・図書修理等様々な分野での図書館ボランティアとの協働が拡充した。男性の参加は依然として少ないが、ビデオ講習会や合同読書会において協働していただいた。	図書館おはなし隊 始め各読み聞かせボランティアグループ・ビデオクラブ・古本市実行委員会・各読書サークル・図書修理ボランティアグループ・絵本創りの会	（支出） 63,000円 （講師謝礼等） 15,000円 （報賞品）	・学校や児童館への読み聞かせボランティアの派遣による地域への読書活動推進での協働。 ・図書館フェアにおける図書館ボランティアとの協働。 ・図書館PRビデオの制作におけるビデオクラブとの協働。	133,000円（講師謝礼等） 18,000円（報賞品）
28	家庭教育推進事業	生涯学習課	市内4幼稚園・9小学校・中学生のお子さんをお持ちの親で組織される各学級がそれぞれ自分たちが学びたいことを年間計画に上げ、勉強をしながら仲間づくりを行う。平成19年度からはOB学級を開設、ミーティング時のアドバイザーなどで活躍、計15学級と	合同家庭教育学級講座を年に3回開催、各学級で数回ほどの講座、社会見学などの仲間同士の活動の中で、子育てについて支えあい自らを高めていく。	OB学級の学級生が相談相手になり、教室を開催することができた。合同学級にOB学級との交流会を開催でき身近な先輩の話聞くことは大変参考になる。	PTA・各保育園に合同などの講座への受講を呼びかけた。	講師謝礼 915,400円	各講座への受講を学級生以外の方にも呼びかけ、なるべく多くの方の参加を求めていく。	講師謝礼 1,000,000円

平成20年度協働モデル35事業実績報告及び平成21年度事業調査

			20年度 実績							
事業名	課名	事業概要	20年度当初計画	実績	協働した団体名	収支額	21年度の具体的取り組み	予算額		
29	とよあけマラソン 開催事業	体育課	市民ボランティアスタッフ500名が主体となり「とよあけマラソン」を開催する。	休止			休止			
30	地域で支える学校づくり事業	学校教育課	地域と学校が連携して教育を実践する社会が望まれている。地域の人・文化との関わりを通して、豊かな心を持った子供達を育てるため、学校事業に関わるボランティア活動を推進していく。	各学校独自の創意・工夫を生かした教育活動を展開するために行っている。特色ある学校づくり事業(学校花壇・農園、英語活動等)への参画、総合学習支援として、おこしもん作り・昔の遊び・棒の手など、地域住民と一緒に学びあい活動できる環境を設けていく。	小中学校12校毎に独自の創設・工夫を生かした事業を行った。学習規律の確立と基礎・基本の定着による学力の育成へ取り組み、学習園、花壇を中心とした栽培活動、オーストラリアの姉妹校であるポーシアストリート小学校に児童作品を送って交流を深めた、「親子ふれあいデー」を開催し、学校の教育活動や生き生きと活動する子ども達の様子を多く保護者に伝えることができた。五色百人一首を購入して多くの児童が百人一首を暗記し、古典を親しむと共に国語力が向上に繋がった。児童の主体性を伸ばすことにより家庭やちいいきの人材かつようと豊かな体験活動の推進に取り組み成果を得た。	市民、学校ボランティア等	各学校独自の創意・工夫を生かした教育活動を展開するために行っている、特色ある学校づくり事業(学校花壇・農園、英語活動等)への参画、総合学習支援として、おこしもん作り・昔の遊び・棒の手など、地域住民と一緒に学びあい活動できる環境を設けていく。	無 (ただし、特色ある学校づくりの補助金としては予算あり)		
31	地域ポータルサイト活性化事業	人事秘書課	制約の多いオフィシャルホームページは行政情報を中心の内容となり、一方通行の情報発信になりやすい。それを補完するために、NPOなどの運用するサイトとの協働により、ポータル化を図り、相互通行が可能な情報発信を目指し、より身近な情報を共有できるポータルサイトを構築する。また、魅力的なポータルサイトになるよう情報発信する課とポータルサイト発信者とが情報交換できるよう支援していく。	これまでの情報提供は月1回発行の広報紙の情報が主で、ポータルサイト側に掲載情報を広報紙より抜粋してもっていた。20年度からはポータルサイト管理者と意見交換し、ポータルサイト来訪者が必要としている情報を網羅できるように提供情報を精査する。また、広報紙のみならず市ホームページ掲載依頼書やニュース連絡表などにより集まる情報も担当課と調整を図りながら提供していく。	協働団体への情報提供は広報紙の情報が主なものであった。20年度は情報提供に加え、意見交換会を実施し、ポータルサイト側の要望を聞くことができた。サイト運営側からは「掲示板に市への要望や疑問が書き込まれた際に、市側が回答を書き込んで欲しい」など掲示板運営管理の多忙さを訴えられ、さらに中学校への犯罪予告にも利用されたことから、ポータルサイト自体の更新回数が減少気味であった。	豊明情報市場	無し	20年度と同様に情報提供を実施していく。また、意見交換会を行いながら、市と豊明情報市場との関係の明確化を図りポータルサイトのあり方を改めて考えていく。	0	
32	コミュニティ情報発信事業	市民協働課	区や町内会が、自ら開催するイベントの紹介や「お役立ち情報」など地域の様々な情報を、チラシやインターネットなどを利用して、効果的に情報発信ができるよう支援し、コミュニティ活動の活性化をはかるものである。	独自のホームページを作る意欲のある町内会、及びそれを支援するNPOと協議を重ね、実施に向けた準備をすすめる。	市民活動情報誌「コラボレーション」「とよあけ市民活動情報サイト」等による情報発信。市民活動支援講座の開催。チラシづくり講座 NPO現地見学研修	豊明パソコンサポートグループあいL@nd		平成21年度も引き続き、区や町内会は、地域活動の活性化のために、チラシやポスターをはじめインターネットを使った様々な情報発信を積極的に行っていく。(拡充) 行政は、区・町内会のリーダー研修として、パソコンを使ったチラシ作り等の講座を開催し、効果的な情報発信ができる支援を行う。(継続) 支援NPOの協力のもとに、行政は区、町内会の独自のホームページ作りを支援するため、「電子町内会」等のモデル地区をつくり、情報発信を進めていく。(継続)		
33	男女共同参画 講座開催事業	市民協働課	女性のための学習参加支援講座、親子での体験講座、男女共同参画講座等、市民の意識向上を図る講座等の開催。	男女共同参画事業の企画案を一般募集し、自主的に企画提案のあった講座をPRから運営まですべてを団体等に依頼し実施する。団体等の自主性を尊重しながら事業の実施運営を側面から支援する。	女性のための学習支援講座 親子での体験講座 男女共同参画講座 市民の意識向上を図る講座等の開催	子育て支援ねっと ひまわりっこ	21,200円	平成21年度も市民や市民団体による市民推進ボランティアを育成し、講座の企画運営を市民自らが実施することができるようにする。また、市民や市民団体を講座の講師として活用を図る。		

平成20年度協働モデル35事業実績報告及び平成21年度事業調査

		20年度 実績								
事業名	課名	事業概要	20年度当初計画	実績	協働した団体名	収支額	21年度の具体的取り組み	予算額		
34	多文化共生のまちづくり事業	市民協働課	<p>外国籍市民の人たちがトラブルなく市内で暮らせるようにするための支援を拡充していく。また、地域の中に外国籍市民が溶け込み、日本人市民とともに地域社会づくりをすることができるような環境を整える。最終的に外国籍市民も日本人市民も住みやすいと感じるまちづくりを進めていく。</p>	<p>外国籍市民に多岐にわたる情報を提供していく一環として、昨年度に引き続き、多言語市内案内マップのタガログ語版を作成する。地図面及び裏面の翻訳については業者委託であるが、市民協働課の登録ボランティアのフィリピン出身の方々にチェックしてもらう予定である。また、配布については外国人が多く出入りする店や団地自治会、スーパー、コンビニなどの協力を得ながら実施する。外国籍市民に本市内の施設や利用方法を理解してもらうため市内案内ツアーを実施する。実施は豊明市国際交流協会に委託し、協会の登録ボランティアの通訳により市内を案内し、利用方法などを説明する。また、立ち寄り先として、各団体や区が実施している事業とのタイミングを計り、日程等が合えばそれらの事業に参加しながら、案内ツアーを実施する。市民協働課の通訳・翻訳ボランティアの組織化を昨年に引き続き行っていく。それらの人たちに、病院や各施設と一緒に行ってもらう、診察や諸手続きを応援する。</p>	<p>タガログ語マップの作製については、フィリピン人のボランティア数名が、業者から出された翻訳文についてチェックしてくれ、修正を加えてもらった。自分たちの出身国の人のためになることが非常にモチベーションを高めるようで、進んで協力してくれた。市内案内ツアーを国際交流協会に委託し実施した。外国籍市民へのPRや参加者の募集、訪問場所の決定など、協会の視点に立ち決定してくれた。行政との協働にも慣れておりスムーズに実施できた。登録ボランティアに本年度はスペイン語のボランティアが加わり、対応言語が増えた。ただ、ボランティアの絶対数が不足しているため、各種翻訳に時間がかかり、期日が決められているものについては、対応が難しかった。</p>	国際交流協会 通訳・翻訳ボランティア	143,500円	<p>20年度に引き続き、外国籍市民に対し市内案内ツアーを実施する。昨年度の参加者は日本語教室受講者に偏っていたため、事前告知をしない外国籍市民全体に広げ実施してもらおう働きかける。</p> <p>20年度に引き続き、市民協働課の通訳・翻訳ボランティアの拡充・組織化を実施する。そうした人たちに、困っている外国籍市民への手助けや、区・自治会・町内会などのお知らせ関係の翻訳をしてもらい、外国籍市民が地域の一員となる手助けをする。</p>	135,000円	
35	民間活力推進事業	企画政策課	<p>民間の知識と技術により実施することによって効率的で質の高いサービスが提供できる事務事業は、民間委託（指定管理者制度、市場化テスト、PFIなど）に移行できるよう推進する事業。</p>	<p>現在公の施設は、123であるが、直営と業務委託によるものであり、指定管理者制度の導入は未定である。</p>	なし	0	<p>民間活力により効率的で質の高いサービスが提供できる事務事業の洗い出しを行うことが必要である。そのため、平成21年度では、行政評価による評価検討や、民間委託（指定管理者制度、市場化テスト、PFIなど）の検討により、実施のための対象事業の抽出を進める考えである。</p>	0		